

## 所長の模型部屋（第19回）

皆さんこんにちは。

皆様は完成した模型をどのように飾っていますか？私は部屋の中にスチール棚を置き、その周辺に透明ビニール幕を巻いて簡易展示棚にしています。とにかくホコリが被らなければいいと思っています。なんてたって自衛隊車両だけで皆様にご紹介している両数ですから、これに他国軍戦車や航空機、艦船そして地球防衛軍（宇宙戦艦ヤマト）にジオン公国（ガンダム）・・・綺麗に飾るどころではありません。娘達も「こんなにいっぱいガラクタどうすんの！お父さんが死んだら捨てるの私達なんだからね！！」と、厳しいご指摘・・・大丈夫！お父さんは長生きするよ！（お前達を育てるために長生きしなきゃ！）さて、今回は、昨年末にファインモールドさんから発売になった

### 60式装甲車

です。



60式装甲車は、私が第71戦車連隊勤務時には各戦車中隊に1両ありました。

主に中隊整備班の車両として使われており、後部の人員用座席エリアには予備部品や工具がびっしり積まれており、作戦間、車両の故障が発生した時は、この装甲車と「所長の模型部屋」第3回で紹介した78式戦車回収車とともに助けに来てくれました。その他にも、機甲科隊員は新隊員教育の時に戦車の操縦のため、大型特殊免許を取らなければならないのですが、この車両で免許を取った隊員も多かったです。私も、新隊員教育隊の教官で、この装甲車で操縦を教えていました。

今回は、私がお世話になった第71戦車連隊5中隊車両で作成しました。



ファインモールドのエッチングパーツの他、タミヤ74式戦車の車長および操縦手のフィギュアを使用しました。私が勤務していた頃は、まだ「鉄牛」マークがついておらず、隊員は旧迷彩服でした。キットをそのまま作成していますが、実車は車体上部に各中隊で自作した貨物ラックを取り付け、常にいろいろな物が積載してありました。今回は、あえて60式装甲車のシルエットを重視するためにシンプルに作りました。



重機関銃手用ハッチには、61式戦車のフィギュアを載せようと思ったのですが、キットがなく、解放したままとなっています。いずれ載せたいと思っています。今となっては旧迷彩服も懐かしいです。



各機関銃は、いつものようにフラットブラックに鉛筆の芯をこすってそれらしく金属感を出しています。ワイヤーはキットの糸を使用したのですが、途中のワイヤーフックがタイトで、そこで曲がってしまい、牽引ワイヤーの固さが表現できませんでした。



車体はアクリルタミヤの自衛隊色を吹き付け、キャタピラはすべて接着した後にタイヤブラックで転輪も含めて塗った後、迷彩色を塗ってウェザリングです。一枚一枚接着しなくてもごらんの通り弛みが表現できるので結構良いキットだと思います。



マフラーはパステルコンテの茶色を粉にして、フラットアルミの塗装直後にパラパラかけて、またフラットアルミをドライブラシして銀の塗装膜の下から錆が浮き上がった感じを出しています。車体全体のウェザリングはタミヤのウェザリングスティックです。



コンパクトな車体がよく表現されたすばらしいキットです。  
完成後に操縦手を載せる場合は、最初に乗せた状態でくみ上げるとか、車長席キューポラを接着せず裏側から入れ込む等、工夫が必要です。



同じ中隊に配備されていた73式装甲車と並べてみました。一回り大きいのがわかります。ということで、次回は

**73式装甲車**です。ではまた。